

北海道から 岩手県へ

氏名 近藤 雅敏

北海道苫小牧市立明倫中学校 → 岩手県宮古市立崎山中学校

(期間：平成28年4月1日～平成30年3月31日)

1 派遣先の学力向上等の取組

○ 岩手県の学力向上について

岩手県では、「児童生徒の学力向上」において目指す姿として、各学校においてわかりやすい授業が行われることにより、児童生徒一人ひとりに基礎・基本が定着し、これを基盤として、思考力・判断力・表現力や主体的に学ぶ態度を育み、さらには、目指す進路を実現できる知識や技能を習得し、自立した社会人になっていくために必要な総合力が身に付つくとしている。この目指す姿を実現するため、主な取組として、国語・数学・英語を核として各教科の授業改善を進めるとともに、教科横断的に学校組織全体として授業改善に取り組み、児童生徒の学力向上を図っている。また、学力向上のための学校訪問指導、授業改善の推進と家庭学習の充実を推進し、教員のより一層の授業力向上を目標に、小学校、中学校の各教科において、県内で優れた指導実践を行っている教員の授業や県の課題に対応した授業の紹介や意見交換などの「授業力向上ブラッシュアップ事業」も活発に行われている。

授業づくりや授業の検証に役立つ「いわての授業づくり3つの視点」

視点1 見通し

- ★ 学習課題（学習問題）を設定し、学習のゴールを見通す。
- ★ 学習課題（学習問題）の解決に向けて、学習内容を見通す。
- ★ 学習課題（学習問題）の解決に向けて、学習プロセスを見通す。

視点2 学習活動

- ★ 学習課題（学習問題）を解決するために学習活動をする。
- ★ 一人一人が学習課題（学習問題）を解決する。

視点3 振り返り

- ★ 学習内容を振り返ったり、学習の成果を実感したりする。
- ★ 学習プロセスを振り返ったり、協働的な学習活動の良さを実感したりする。

「確かな学び、豊かな学び」の実現に向けて全県で共通して取り組み、学校での組織的な対応を展開することで、児童生徒一人ひとりの学力を保障し、豊かな人間の育成を図っている。

○ 岩手県の防災教育について

岩手県の教育において特筆すべきものに防災教育がある。県教育委員会では、「いわての復興教育プログラム」における教育的価値【いきる】【かかわる】【そなえる】を踏まえた児童生徒用の副読本を作成し、復興教育の充実に取り組んでいる。

派遣された宮古市では、防災教育が積極的に実践されており、「地域・家庭と連携した児童生徒の安全確保」という視点を持って日々の教育活動が展開されている。勤務した宮古市立崎山中学校においても、隣接保育所との合同避難訓練（中学生が園児に付き添う）、小中連携した一斉下校指導による保護者への生徒引き渡し（全校生徒約90名一人ずつ確認）と送迎における使用道路の交通整備、また、生徒のリーダー研修（災害時の対応、非常食の調理など）も行われており、被災時を想定した実践的で効果的な訓練が展開されている。



2 北海道に戻って実践したいこと

○ 学習シートの活用

授業の課題を学習シート(右図)に記入させ、学習の内容とゴールを見通せるようにしている。授業終了前に「まとめ・わかったこと・感想」と自己評価を記入させることで、学習内容をふり返ったり、学習の成果を実感させている。授業を通して、できるようになったこと、できなかったこと、わかったこと、わからなかったこと、興味をもったことなどについて、自分の言葉で説明し、学習活動の良さを実感できるようにしている。

○ 今こそ防災教育を

9月6日午前3時に発生した北海道胆振東部地震。深夜のため臨時休校の対応となったがこれが授業中であれば、生徒の安全確保と下校方法などその対応に相当の困難を強いられたと想像できる。岩手県の教訓から、改めて防災教育の大切さを考えさせられる。ゆえに、地域と連携した防災訓練の取組や生徒のリーダー研修などの必要性を提案し、災害に備え、人命の尊さを考えられる機会をつくっていききたいと思う。